

MARSHALING OF THE NATIONS

各國之進軍

明治三十二年四月

末世之福音社

020316-000-7

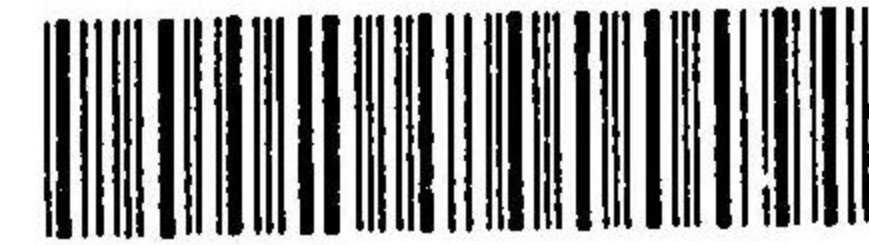
特49-437

各國の進軍

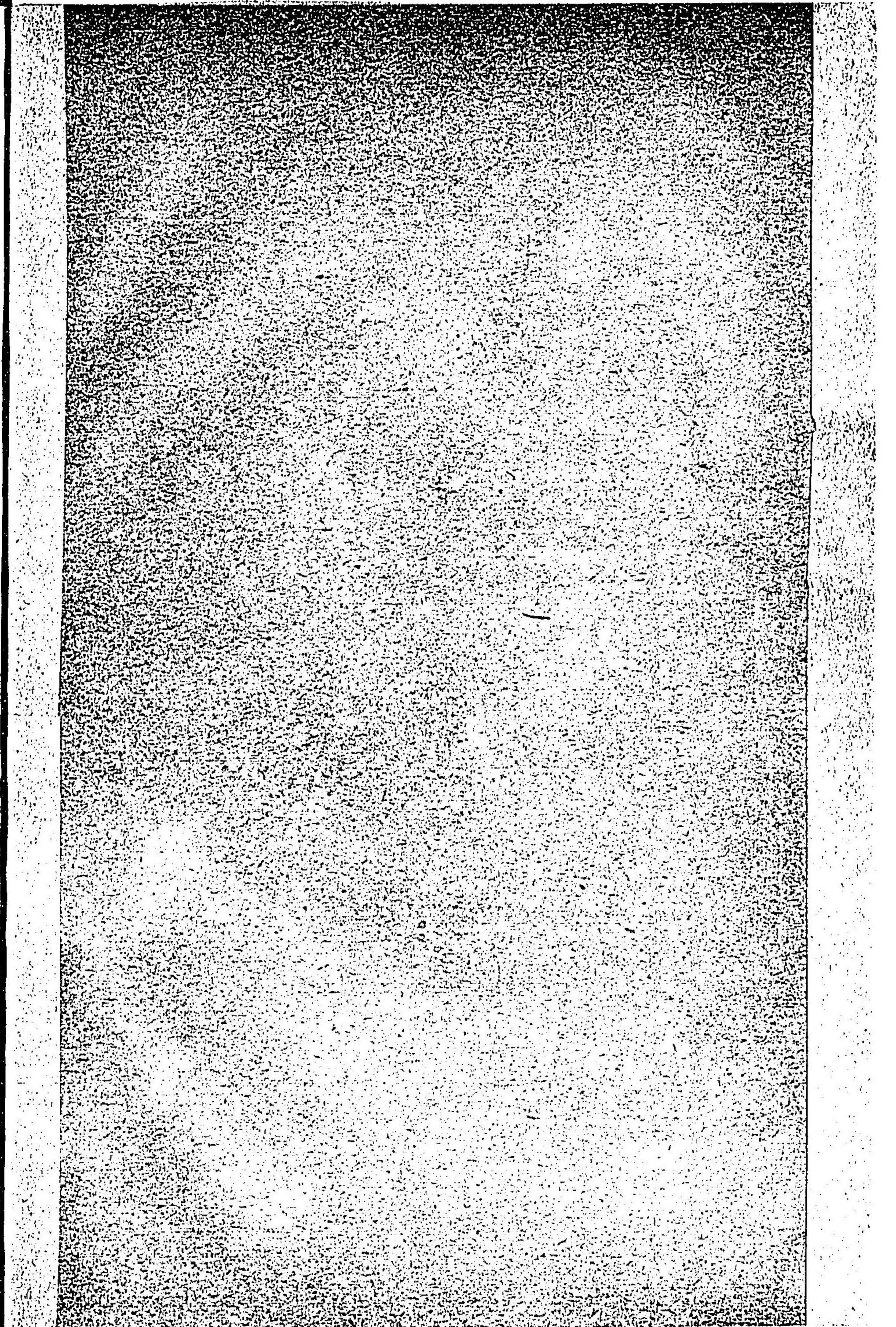
末世之福音社／刊

M36

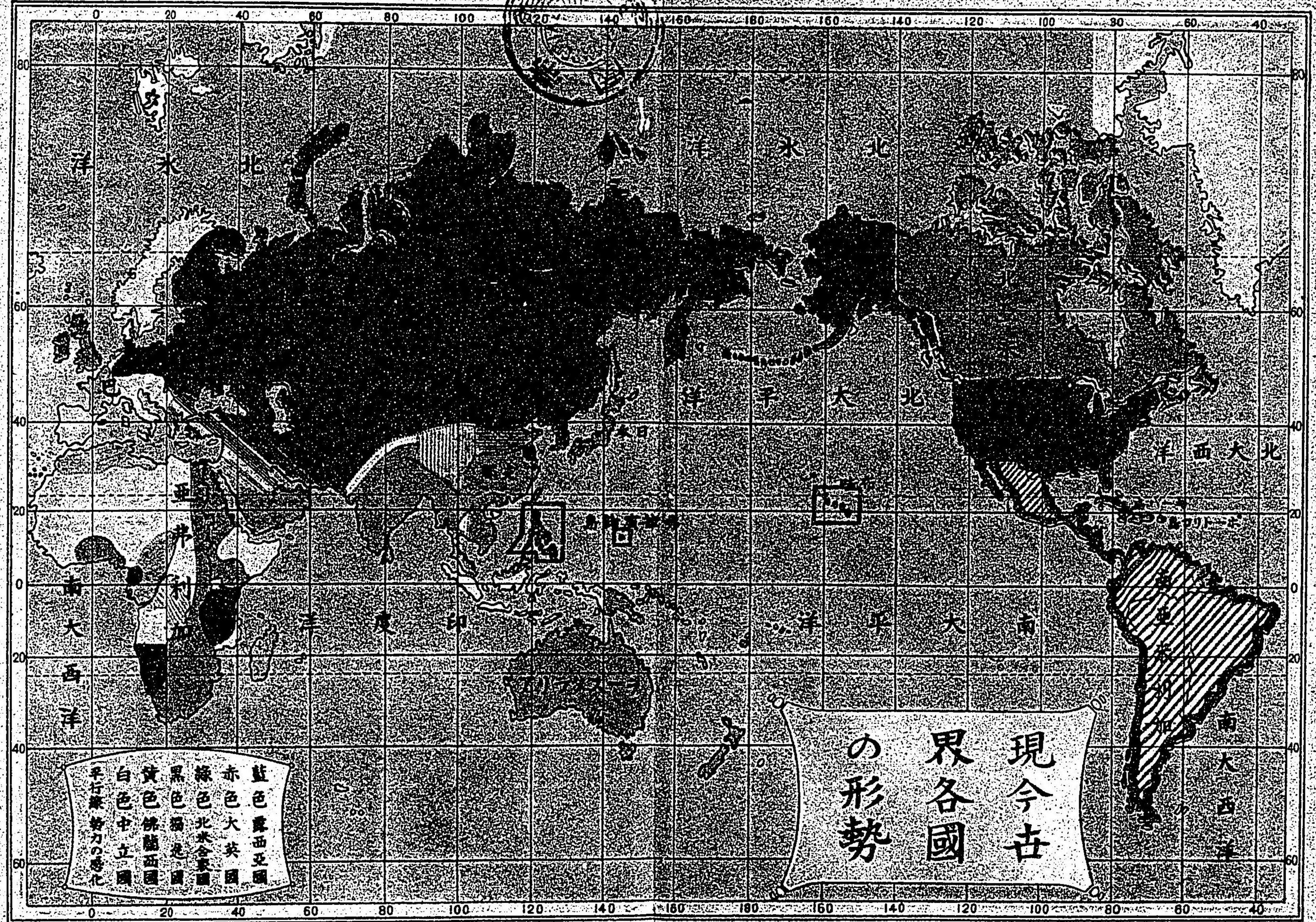
ABI-0122











現今世界の形勢

藍色 露西亞國  
 赤色 大英國  
 綠色 北米合衆國  
 黑色 獨逸國  
 黃色 佛蘭西國  
 白色 中立國  
 平行線 勢力の感化



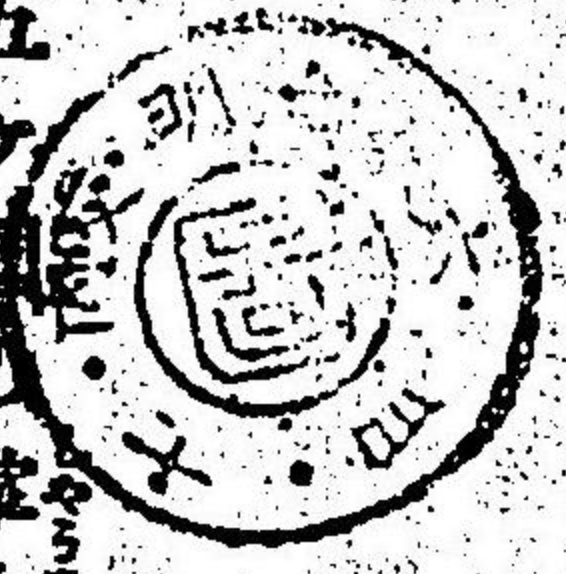
# 各國の進軍



讀者諸君、君は現今世界の權力及び領土が僅々四五ヶ國の掌中に歸し、ある事、亦彼等の一舉一動は萬國に影響するを知るならん、恐らば多少此等の事情を知らぬ者はありますまい。乍併諸君はこれを知ると否とに關はる事、此冊子を手にしたからは記者と偕に少しく此問題の研究すべき機会を與へられたのである。

何人でも地圖を見れば現世界に於る最強國は英露米獨佛の五ヶ國なることが明に分る。即ち英は親列顛諸島を始め地中海より喜望峯に至る亞弗利加全部、亞刺比亞、印度及支那の中心と環太利亞、タスマニア、ニゼラント、太平洋群島、英領亞米利加を領し、露は歐洲、バルチック海の東

各國の進軍





岸に起て北緯四十度より東白令海峡に達する全北部及南方亞細亞中部を貫き波斯灣に至る領土を占め北米合衆國は太平洋より大西洋に横はる大陸の外玖巴ポルトリコを有し又モンロー主義に由て南米大陸に保護權を振ひ西は布哇、ワケタツイラ、クアム、比律賓諸島を併呑して今や支那の門戸に逼り亦獨は中央歐洲に本國を定め亞弗利加東部及西部に二ヶ所支那の一部に殖民地を拓きソロモン、カロリン、サモアの一部太平洋中の諸島を有し佛は西北歐洲に於て本土を占め亞弗利加に權力を擴張しチアド湖よりゾア河迄下コンゴ海に達する領土を得且つ亞弗利加の東岸遙にマダガスカル島南支那の一部及太平洋の諸島を領して居る

此外日本以太利、埃太利、スカンデナビア、葡萄牙、和蘭、白耳義、西班牙の如き國あれども彼等は逆も前五大國に敵しては何事も實行出來ないの

である即ち彼等は恰も白耳義が西部亞弗利加に於て佛國と聯合し露が支那で佛と同盟し以太利が支那沿岸及埃及ナイル上流に於て英國と和し葡萄牙が東亞弗利加にて獨英と協同するが如く皆五大國の一と握手して存在するのである

此今日世界の形勢なる事は誰も疑はれない事實であらふ又彼の五大國は各自世界を五分しつゝあるを認めて居る即ち西曆一千八百九十九年十二月獨逸國會々議場でボンブエロー伯は他國が世界の分割を企圖するに我儕豈袖手傍觀すべけんやと叫んだ

伯の言は即ち現世界各國の意見である然ば我儕が日々各國の形勢に注目するは尤も大切な興味ある事である乍然尙重大なる問題は各國民が斯の如き意見を抱くに至れる原因を研究する事である人もし此原因を知らずば例令何處に戦争起て何州何島が占領され地圖が如



何な工合に變更したなどと講釋しても何の益にも立たぬ恰も塗板亦  
 は紙と同じく死物である  
 此等の事は唯偶然の結果なる乎否否古代に於る大國の動作は皆無意  
 義でなかつた必ず深遠なる奧義があつて之を知らんと欲ふ者には示  
 されたのである今日も變ることはない世界各國に影響する列強國の  
 動作は悉く深き意義がある然ば其意義は何であらふ？これ我儕が研  
 究せざるべからざる所の問題である余は此問題を各自に臆測せよと  
 云はない眞理に於て如何なる意義であると云ふのである其眞理とは  
 何か即ち古來帝王各國の興廢存亡を默示せし所の聖書である聖書の  
 外に此問題を解釋するものはない  
 凡て聖書を読んだ者は其中に帝王及國の名稱又神の預言者が彼等に  
 與へし使命の書である事を知であらふ然ば聖書を読しものは之を信

すると信じないとは別問題として古代に於る帝王各國の興廢存亡は  
 悉く預言してあつた事を知らぬと言はれまい即ち聖書には埃及アッシ  
 リア、バビロン、メデヤ、バルシヤ、ギリキ諸國及後に起る所の恐るべき  
 羅馬國等の諸大國は勿論市民の如きタイヤ、シドン及パレスティンを  
 圍みしモアブ、アンモン、アラビア等の小國まで細大漏さず録してある  
 聖書に神は人を偏見すと教へてあるが彼はまた一個人の集合せる國  
 家をも偏見ざる事は明瞭である然ば昔時預言者をして恰も一個人を  
 愛する様に地上各國の運命を定めて警戒した神は今日の諸國に關し  
 て何も示さない筈はない今日の最小國でも古代の諸王國に比すれば  
 大國である其大國に至ては歴史未だ見た見ざる所の廣大なる領土を有  
 して居る即ち聖書の預言は單に昔時の諸王國に對する使命でなく亦  
 今日の國民に與へられたる警戒と教訓である



昔時の國民に對する預言

エレミヤ第二十七章は昔時の國民に對する眞理の解明である。即ち預言者エレミヤは神の命に託て索と輓とを作り之を自己の頸に置いてエルサレムに行きモアブ、アンモン、ツロ、シドンの使者がセデキヤ王の所に来れる時其處に出でて頸に置たる索と木輓を外して彼等に與へ本國に歸らば左の如き使命を各自の王に語るべしと命じた。

萬軍のエホバ、イスラエルの神かくいひたまふ汝等其主にかく告べしわれ我大なる能力と伸たる臂をもて地と地の上を人々と獸とをつくり我心のまゝに地を人にあたへたりいま我この諸の地を我僕なるバビロンの王チブカデネザルの手にあたへ又野の獸を彼にあたへて彼につかへしむかれの地の時期至るまで萬國民は彼と其

耶二七  
四一

但五章

子ととの孫につかへん其時至らば多くの國と大なる國は彼を己に事へしむべしバビロンの王チブカデネザルに事へずバビロンの王の輓をその項に負ざる國と民は我彼の手を以て悉く之を滅すまで劍と饑饉と疫病をもて之を罰せんとエホバいひたまふ故に汝等の預言者汝らの占筮師汝らの夢みる者汝等の法術士汝等の魔法師汝等に告て汝らはバビロン王に事ふるところらじと言ふとも聽なかれ彼等は謊を汝らに預言して汝等をその國より遠く離れしめ且我をして汝等を逐しめ汝等を滅さしむるなり然るにバビロンの王の輓をその項に負ふて彼に事ふる國々の人は我これをその故土に存し其國に耕し住しむべしとエホバいひたまふ

亦約拿書もアッシリア帝國に關する神の使命の記録である預言者ヨナの遣はされし時アッシリア帝國はフニシヤ、シリヤ、メソポタミヤ地方ア

昔時の國民に對する預言

七



一メニヤカスビアン海の全北部諸國を併呑し首都ニチベに金銀財寶を蒐集め大帝國と誇りて王を始め庶民に至るまで放縱奢侈不義惡徳を極め遂に滅亡の危機に切迫した夫故に神はヨナを遣はして彼等の罪惡を責め且つ悔改すは速に滅すべき事を告たのである。彼等は幸に神の使命者に聽従ひ悔改めて一時滅亡を免れてあつた

アツシリア帝國の後に起つた國はチブカデチザル大王のバビロンである。大王は稀世の英雄にてその征服せし領土の廣大なることは逆もアツシリアの及ぶ所ではなかつた。而して神は全しく此王國にも預言者ダニエルをして使命を與へてある

次はバビロンより更に大なる領土を併呑せしメデヤ、バルシヤである。ダニエルはまたサイラス王にイザヤの錄せる神の使命を讀聞せ(全書四四ノ二八、四五ノ一一五)王は之に聽従つてチブカデチザル王の時

俘虜となりてバビロンに在し猶太人に自由を布告しペレスタインに歸てエルサレム城と神の殿を再建すべきことを命じた(喇一ノ一四)バルシヤを滅して世界を一統せるはグロッキーのアレキサンドル大帝である。彼がグロッキー帝國をアトリアチック海より印度國境及ダニープ河と黒海よりエセオピアにまで擴張した事は誰も能く知て居る

彼亦征途エルサレムに在て自ら神の殿に獻物せし時但以理書に錄されし神の使命を讀聞せられたのである。如此神は必ず昔時の統治者に預言者又は記録に託てその使命を示した。然る今日世界の權力及び領土を掌握する列強國(五)に對しては何の使命も示してあるまいか。人を偏見ざる神は決して何の時代に於る國でも偏見する事はない。聖書を見れば明に今日の各國民及世界の主動者たる英露米獨佛に關する教訓警戒勸告が教へてある。先づ讀者諸君は批評疑惑の念を棄て神の告



た此大問題の解釋を聖書に於て探究する事が大切である

西歐諸國の形勢

讀者は始に但以理書第二章と七章を研究せねばならぬ。即ち此書は紀元前六百年頃バビロン王ネブカデネザルが當時世界の文明となれる諸國を統一し或夜その王國の將來を思煩ひて寢た時甚だ恐ろしい夢をみて驚き寤めたが其夢を忘れ只常事でない奇怪な怖い夢だと憶ふ許で一向其實体が心に浮ばす流石の大王も眠る事が出来なかつた所で王は急にバビロン國の學者博士を召集して其事を話したけれども彼等は何とも返事しない否出来ないのであつた。彼等は夫迄は何でも知らざる事なしと誇り學士博士の稱號を受けて居たのだが如何しても他人のみた夢は分らない。絶体絶命危く頸を刎らるゝ場合にダニエル

終 Last  
末の日

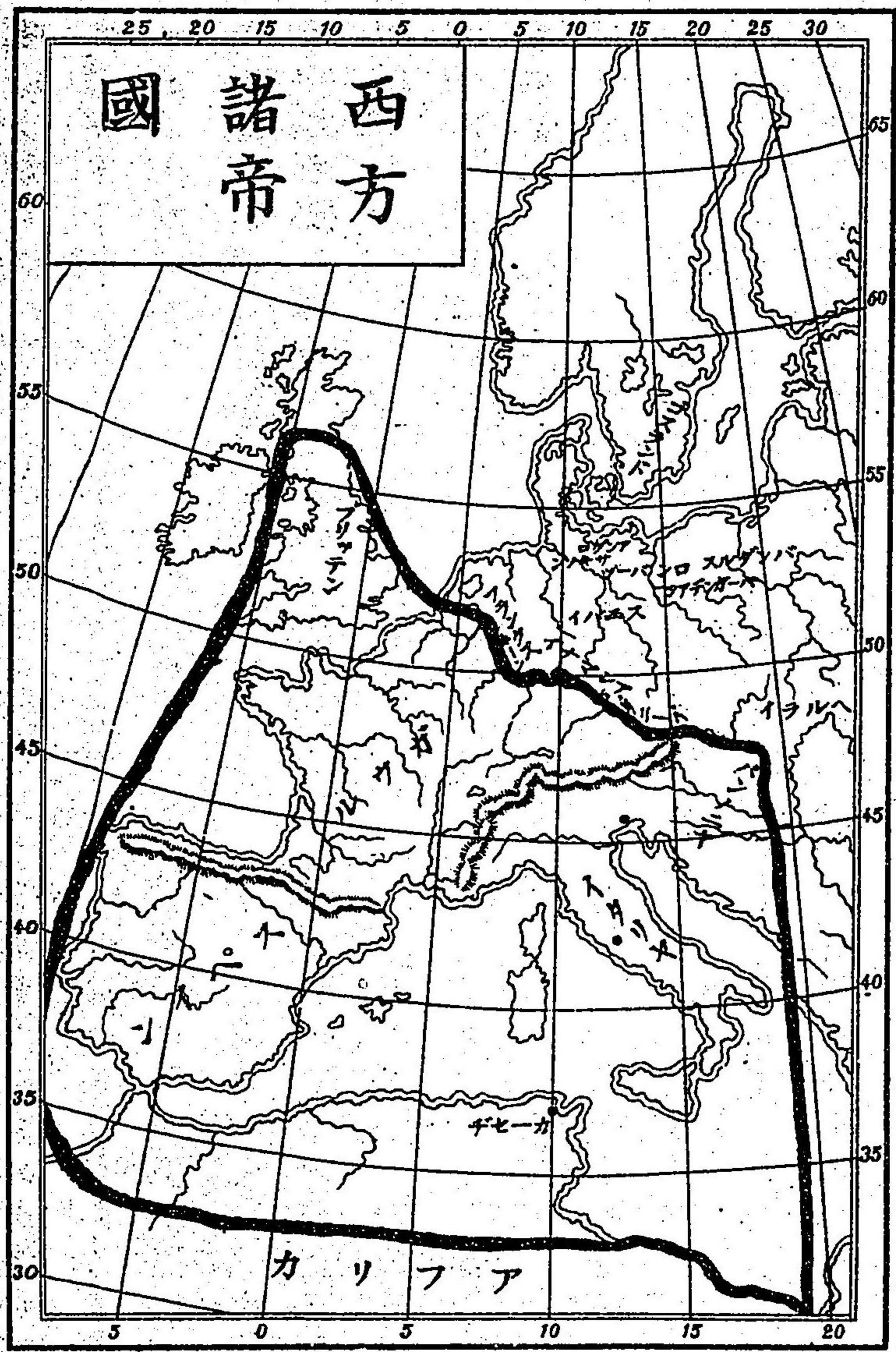
が呼出されて其夢の解釋を奏上し大王に満足を與へて彼等の生命も助かつた事とまた彼が示されし異象の記録である。王は自己の死後を思煩ひ王國は如何に成行くか知たいと欲ふたから夢みたのである。ダニエルは王の前に出で天に一の神ありて秘密を現はし給ふ。彼終の日に起らん所の事の如何なるかをネブカデネザル王に知しめ給ふなり。と答へたが大王の時代より終の日迄は随分長い年月である。然し彼はその夢に託て王の死後世界に起る帝王各國の興廢存亡と此世の終殊に末日の事を示した。

ダニエルは王の夢を解明して汝は即ち此金の頭なり汝の後に汝に劣る一の國おこらんまた第三に銅の國起りて全世界を治めん第四の國は堅きこと鉄の如くならん鉄は能く万の物を毀ち且碎くことをせん汝その足の趾を見たほひしに一分は陶人の泥土一分は鉄なりければ



その國は分裂たる者ならん又汝鉄と粘土との混和たるを見たまひたればその國は鉄の如く強からんその足の趾の一分は鐵一分は泥なりし如くその國は強きところもあり脆きところも有らん汝が鉄と粘土との混りたるを見たまひし如く其等は人草の種子と混らん然と鉄と泥土との相合せざる如く彼と此と相合すること有じこの王等の日に天の神一の國を建たまはん是は何時まで滅ること無らん此國は他の民に歸せず却てこの諸國を打破りてこれを滅せん是は立て永遠に至らん(但二ノ三八一四四)と云ふたが全七章に録せる四種の猛獸は此金屬像と同意義であるダニエルが此猛獸の異象を見て其眞意を知らんとした時に天使は……第四の獸は地上の第四の王國なり是は一切の國と異なり全世界を併呑しこれを踏つけ且打破らんその十の角はこの國に興らんとするの十人の王なり(七ノ二三一二四)と教へた





此に由て七章に録せる十角の猛獸は第四の王國を表はし金像の鉄脚と符合する事は明である又その十の角と十指は第四の王國滅びて十ヶ國に分裂するを示したものに相違ない而して彼はこの王等の日に天の神一の國を建給はん是は何時までも滅ぶること無からん此國は他の民に歸せず却てこの諸の國を打破てこれを滅せん是は立て永遠に至らん……………斯りしかばその鉄と泥土と銅と銀と金とは皆ともに碎けて夏の禾場の糠の如くなり風に吹はらはれて止まるところ無りきと云ふたがこれ我儕が深き研究を要する真理である

キブカデヤザル王の後に世界統一の權を得たのはメデヤバルシヤのサイラス其次はグリーキのアレキサンドル其次は第四の羅馬である。羅馬は一時東洋までも風靡した所の強國であつたが遂にはヤッパリ滅亡を免れず預言に應ひて後十ヶ國に分裂した即ち



紀元三百五十一年歐羅巴北部のチャーマン種族より分れたるフランク及アレマナイの二國民が羅馬の領地に殖民をした即ち當時のフランクは今の佛蘭西人の先祖で今のスワビヤスイッターランド及獨逸人は皆アレマナイ種の子孫である是故に佛語では獨逸人をAllemands獨逸國をAlle magneと呼んで居る亦今の獨逸皇帝はホーヘンゾウライン家の裔で昔時のアレマナイ王の直系である

紀元四百六年バーガンデアンスウエバイ及ヴァンダールの三野蠻國民が羅馬國內に侵入して土地を占領した即ちバーカンデアンが今のスイッターランドとスウイス。スウエバイは葡萄牙に殖民地を拓きヴァンダールは西班牙を横断してジブラルタル海峡を越へ亞弗利加の北部に渡りカイセチに首都を定め百年以上亞弗利加北部と地中海上に王權を掌握して居つた

紀元四百八年ピシゴスは以太利を攻て羅馬府を陥れ掠奪五日間又南部より全半島を廻りて南佛蘭西に進軍し四十年間其地に止まり後バインニース山脈を越てスペインに至り根據を定めたのが今の西班牙國である

紀元四百四十九年アングルスとサクソンが北歐スクリルスウイグーホルステイン地方より起て貌列顛島に渡りイングランド又アングルランドの祖先となつた之れ今の貌列顛大英國である

紀元四百五十一年全四百五十三年に於てダニープ河の東方諸國と支那國疆に至る迄の全土を占領せるハンス種の將アトラは二回羅馬國內に侵入したれども志を得ずして全四百五十三年ダニープ河の東にある都にて死しその國は滅びたが後二十三年を経てフストロゴス(或ハ東ゴス)ロムバーツヘルライの三ジャーマン種現れ羅馬領内に來て



殖民地を占めた斯て西羅馬は全く滅亡し左の如き十の國が出来たのである

一、北スウヰーランドに在るアレマナイスウビヤに在るアルサスロ  
ーレンス

二、モゼルの西北全ゴールに在る佛蘭西

三、西スウヰーランドに在るバーガンデアンゴールの東南に在るロー  
ンとサランの地

四、葡萄牙と稱するスペインの地に在るスウバイ

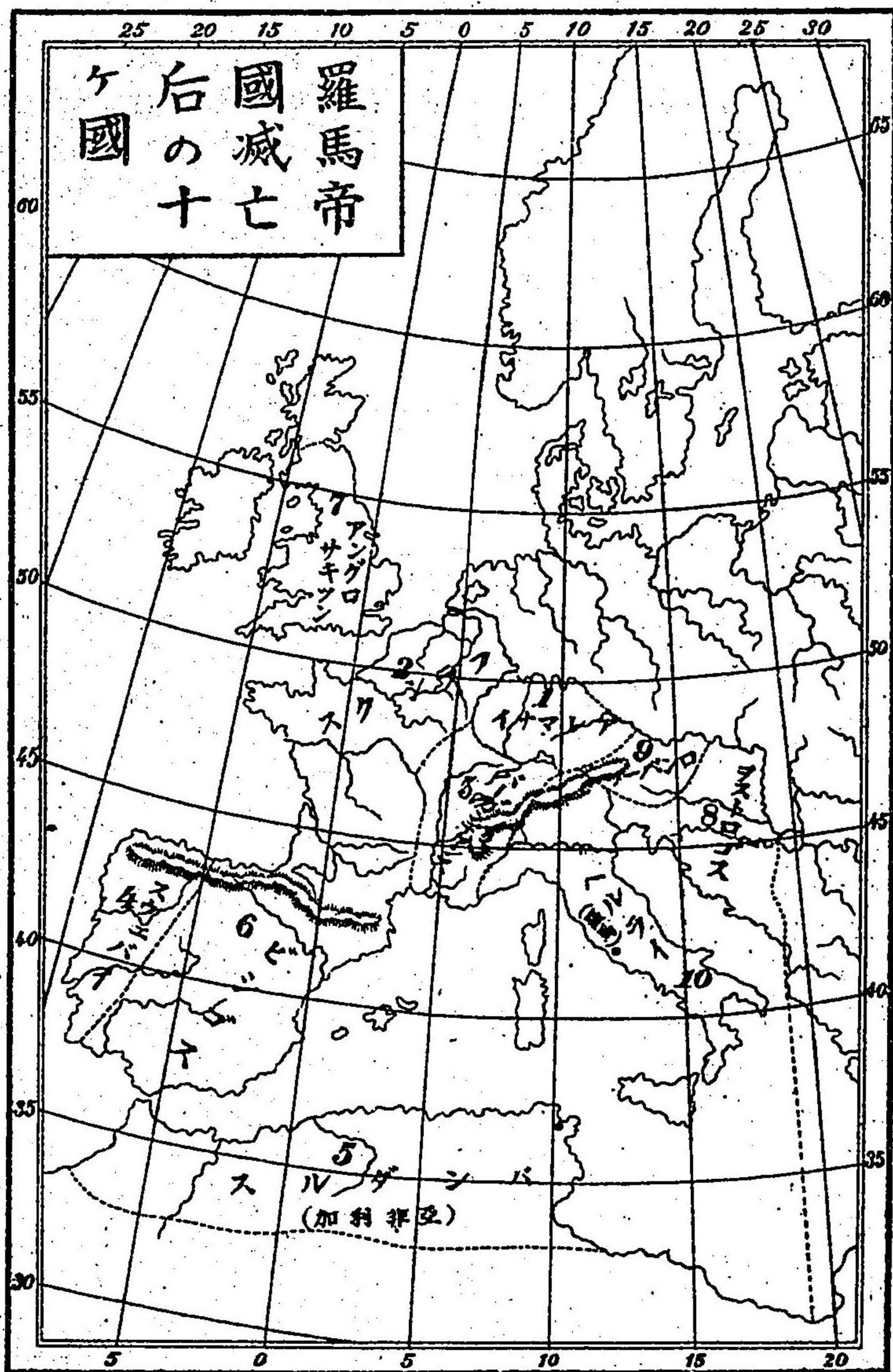
五、カーセデに首都を建たる北亞弗利加のバングルス

六、西班牙及西南ゴールのビシゴス

七、英國に在るアングルサクソン

八、埃太利と稱するパンノニアに在るヲストロゴス





九、ヲストロゴスとアルマナイの間あいたに在あるルロムバールツ

十、以太利イタリに在あるルヘルライヘル國クニを見みよ

如此紀元四百七十六年ねんにはダニエルがバビロン王チブカデチザル王わうに解明とまらした通り第四王國わうこく(羅馬)の末すえに於おて十の王國わうこくが起つたのである。實じつに不思議ふしぎな神の預言よげんに驚おどろかぬ者ものはあるまい。而しかして此事このことは地圖を開ひらき聖書せいしょと歴史れきしを研究けんきゅうすれば誰たれも明あに分わかるのである。

但たゞ以理書七章いりしょしちしやうに此十の國このくにより一人の王わう興おこて他の三ヶ國そのくにを倒たふすべしとあるがその三ヶ國そのくには以太利イタリに割與くわつよせしヘルライヘル亞弗利加アフリカのパンダパルルスス及彼等あつたがらを征伐せいばつする爲ために羅馬教王ローマの手足てあしとなつたヲストゴスであつた。而しかして殘のこりの七ヶ國このくには尙なほ其位置そのいちに於おて存在そんざいして居ゐる。即すなはち今日の大英たいえい國こく、佛蘭西ふらんせい、獨逸どくいつ、瑞西ずいせい、西班牙せんぱんや、葡萄牙ぽろたが、以太利イタリは昔時むかしのサクソンサクソン、フランクフランク、アラマナイアラマナイ、バーガンデアバーガンデア、ンビシゴスンビシゴス、スウェバイロムスウェバイロム、バールツバールツの諸國しよこくであつ



た  
次の圖を見よ

聖書にはこの王等の日に天の神一の國を建給はんとあるが故に三ヶ國を滅じたる羅馬法王と此七ヶ國は世の終まで存在せねばならぬ即ち此諸國は悉く打碎かれて永遠滅ざる神の國の建らるゝ事は事實上

確然である(但二ノ四四)  
現今の歐羅巴諸國には英佛獨の如き強國もあれば瑞西西班牙葡萄牙の如き弱國もあり又其中間に挟まれる以太利の様な國もあるが彼等は皆チブカデチサル王の夢みし金屬像の足指の如き有様に有る英佛獨の一舉一動は各國に影響を及ぼし各國の出來事は彼等に連累する様になつて居る然ばダニエルやエレシヤの時代に於て與へられし神の預言は同じく今日万國民に關する警戒である事も明であらふ即





ち聖書には昔時モアブアンモンバビロンギリキ等に關する事を示せし如く今の列強國に就て詳に顯はしてある  
地圖を見て今日の列強國を比較すべし

### 露西亞

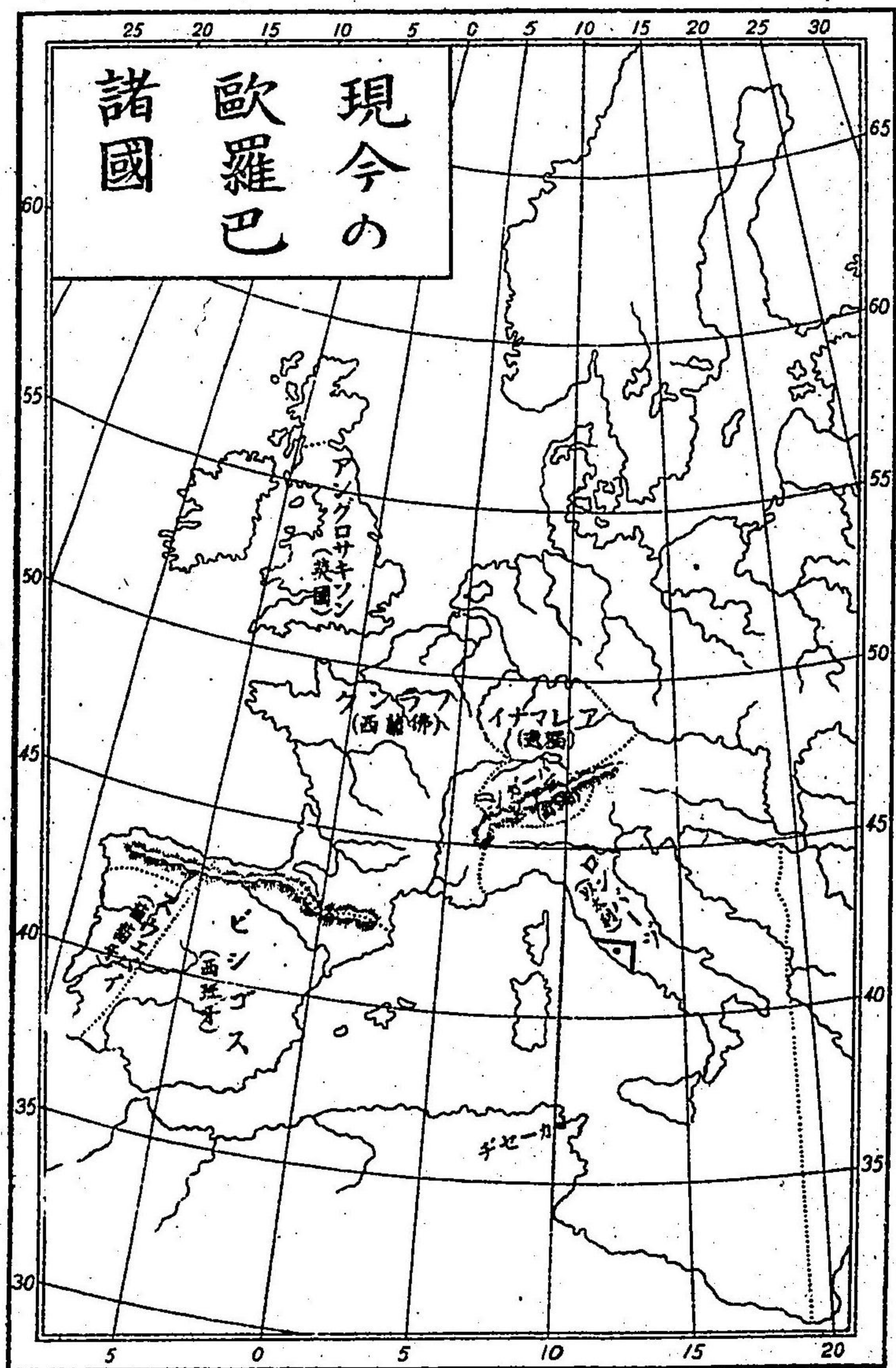
世上以西結書第三十八章及三十九章を讀で奇しむ者多く又其意味を  
知んと思ふて居る人があるが同章の始を讀めばこの預言は今日の何  
國に關するかを學ぶ事が出来る即ち二節に人の子よロシメセク及ト  
バルの君たるマゴクに汝の面を向け之に向ひて預言せよとあり又三  
節同三十九章にも同様の事を書てあるが之は今日の露西亞に關する  
神の言である乍併吾儕は爰に全章の説明はしない只多の人に此預言  
は露國に關はる事であることを知らしむる迄である



メセクはノアの子孫でユフラテ河の沿岸よりメソポタミヤを通廻して露西亞に至り地を開拓し今のモスコーに都を建たマスコバイツ種族の祖先である(ローリソン氏歴史)

マゴグ、トバルもノアの子孫にてマゴグは亞細亞の北方サイセア即ち我儕が西伯利亞と稱する地に殖民しトバルはトガルス州地方に移住したものである

然ば以西結書にロシ、メセク、トバルの君たるロシの王と書てあるは原語 Rosi 又は Russa に由て今日の露國王を示すものなる事は分るであらふ。此故に同書第三十八章と三十九章は地位と歴史と今日露國民に關する預言に相違ない即ち神は世の終に至り彼國に於て如何なる事が起るか預め警戒したものである(同三八の八を見よ)又黙示録十九章十七節と十八節は結三十九章十七節十八節と同意義で同三十八章





二十二節は第六第七の災殃を示すのである。黙十六を参照せよ。而してその國は北方より來るとあるが地圖を見れば誰でも世界北方の大部分を領する國は露西亞である事が分る。亦他に此權力(露)と西羅馬を分割せし諸國の關係に就て明瞭なる預言がある。即ち神の言の如く露は西歐諸國と決して一致しない。ヨシ一致してもそれは單表面上相互の利益を保護する爲である(假令は露佛獨の如き)即ち聖書には彼等が世の終まで互に猜忌嫉妬すべき所の東洋問題を示してある。

### 東洋問題

但以理書第十一章は未來歴史の要畧を記録したもので獅又は金屬像の如き表號的預言でない。多の人は該章を十章と連續して讀まないか。



ら矢張ダニエルの言と思ふて居る。乍併これは彼の言でない。彼が神の天使の語る所を筆記したものである。能く注意して十一章の終と十二章の始を熟讀研究すれば此記録はメデヤ王ダリヨスの時代より神の國が建設せらるゝ迄世界に起る出來事の畧記である事が明である。即ち天使はその時汝の民の人々の爲に立ちこゝろの大なる君ミカエル(基督)起あがらん。是艱難の時なり。國ありてより以來その時に至るまで斯る艱難ありし事なかるべし。その時汝の民は救はれん。即ち書に記されたる者は皆救はれん。また地の下に睡りをる者の中衆多の者目を醒さん。その中永生を得る者あり。また耻辱を蒙りて限なく羞る者あるべし。穎悟者は空の光輝の如くに耀かん。また衆多の人を義に導ける者は星の如くになりて永遠にいたらん。ダニエルよ終末の時まで此言を秘し。此書を封じおけ。衆多の者跋渉らん。而

して知識増へしと言ふてある。ダニエルに語れる天使は讀者にもまた吾輩にも告たのである。サラバ我儕は彼が「我いま眞實を汝に示さん。視よ此後ペルシヤに三人の王興らん。その第四の者は富ること一切の者に勝り。その富強の大なるを頼みて一切を激發し。ギリシヤを攻ん(ダリヤス王の子エッキザーキス)また一箇の強き王起り。大なる權威を振ふて世を治め。その意のまゝに事をせん。但し彼の正に旺盛なる時にその國は破裂して天の四方に分れん。其は彼の兒孫に歸せず。又彼の振ひしほどの威權あらず。即ち彼の國は拔取れて是等の外なる者等に販せんと言へるは如何なる意味なるか。これ研究せねばならぬ問題である。讀者の知る如くアレキサンドル大帝の死後ギリシヤ國は其裨將四人が分割した。即ちカッサンダーは西ギリシヤとマセドニア、ライシマカス



はスレーヌとバイセニア(今のコンスタンチンノーブルの在所セルカス)は地中海より印度國境に至る東方プロレミイは南埃及亞刺比亞サイブラスを取り預言に應ひて地の四方に割據したのである。然るに其後程なく彼等は互に戦ひ遂に其權力は南北二王の掌中に版して北の王はアドリア海よりインダス河に至る全北部を占め南の王は殘餘の領土を所有した。但以理書十一章六節より十六節迄はアレキサンドル帝の死後南北王の演すべき歴史を告たものであるが全十六節より四十節(終の時)迄は詳に南北王の區別してない是故に四十節以後の記録は決してグリシャ又は羅馬に關した預言でない事が明である。即ち三十五節に言ふ如くこは此世の終の出來事を教へたものに相違ない。又他の句にも全様の事が書てある。讀者は必ず南の王は埃及で北の王はコンスタンチンノーブルを中心

とせる國なる事を忘れてはならぬ。誰も西曆千四百五十三年に於てコンスタンチンノーブルは土耳其の領地となれるを知らぬ者はない。然るに何人も終の時の北の王は土耳其である事を疑はれまい。即ち此國に就て左の如く書てある。彼は海の間におひて美はしき聖山に天幕の宮殿をいつらはん。然るに彼遂にその終に至らん之を助くる者なかるべし(十一ノ四五)。五十年前土耳其が歐洲諸國間の問題となつて以來世人は皆彼國の滅亡を期して居る。今日迄土耳其の存在したのは決して自國の權力でない。露英獨其他西歐諸國の協商に依てヤット餘喘を保ち來たのである。千八百九十五年コンスタンチンノーブルに一揆起てアルメニア人と小亞細亞及アルメニアにある土耳其人が争闘せし時英米兩國が歐洲諸國に對して土耳其政府の全廢を要求した事は誰も能く知て居る。當



時コンスタンチンノーブルに在るアルメニア人は必ず宣戦布告せられて英國艦隊はマーマラ及ボスポラの海上に顯れ速に土耳其政府の極端より救ふて呉れるに違ないと十月間は毎朝起ると海上を眺め今日は一と首を延して待望んだ其様な場合なれば英米兩國國民は頻に歐洲諸國に勸告して彼等は殆んど斷行せんとしたガサリスペレイ侯が英京倫敦のマンシヨンハウスに於て左の如き演説をなして關係諸國に注意せし爲め中止されて仕舞た

土耳其が過去半世紀間彼の非常なる形勢を維持したのは全く世界の列強國がオットマン帝國を存せしむるは基督教國の平和を保つ爲め必要であること決定したからである。余は今日も尙諸國が此方針を變更したと信じないオットマン帝國の滅亡は只その領土を驚赫するの危険ある耳ならず其燃火は遠く他國に移り遂に全歐洲をして災

殃なる戦亂を惹起す導火線である嘗て我儕の先輩がオットマン帝國の獨立を是認し且つ相互締盟を結びしは此重大なる問題が彼等の念頭にあつたからである……

侯の説の如く土耳其の今日あるは基督教國の平和を維持し各國間の大戦争を避んがため便宜上保護せらるゝからである千八百九十五年の騒動中或公使が土耳其の處置を埃太利皇帝に建議したら皇帝は我國は敢て關係しない土耳其の處置を圖るは恰も火薬に火を點る様なものだ云ふて拒絶したソダ實に土耳其は歐洲各國に導火線を付する火薬庫と同じで一方に火が燃ば忽ち歐洲全体が危険なる戦亂の渦中に葬られてしまふ是故に彼等が互に條約を守り平和を持続する間は兎も角一朝その條約を無視する國があつた場合には如何なる乎此事は諸列強國の覺悟する許でなく土耳其自身も預期して居る



余著者嘗て土耳其に行き土着の紳士と語て話頭此事に及びしにその紳士は左の如く余に答へた

ア、私も今少時裁判官と此事を話した所ですが彼は(我)歐洲諸強國が我等をコンスタンチンノールより追出すべしと覺悟して居る。其時我等は此處を去て政府を亞細亞の一部に建ねばなるまい販する所エルサレムが土耳其政府の位置となるだらふ而して諸強國尙來り攻め其處より我等を追出す時にはメサヤとマホメット來るべし云々

聖書に「彼は海の間において美はしき聖山に天幕の宮殿をしつらはん然と彼遂にその終に至らん之を助くる者なかるべしと書てあるは如何なる意味なる乎。コンスタンチンノールは海の間にあれども彼處には美はしき聖山がない。聖書の美はしき聖山と稱する地はエルサレ

ム許である他には決してない土耳其人もエルサレムを聖處と呼んで居る即ち古來エルサレムの名はユダヤ人クリスチャン、マホメダンスが皆敬虔の念を以て深き感動を喚起する所の紀念と稱へられてある。此故に海の間にて美しき聖山に天幕の宮殿をしつらはんとは世界の大戦争起る時土耳其の首都コンスタンチンノールが舊のエルサレムに移ることを示したものに相違ない。然ば其時は如何に成行くべき乎聖書は「然と彼遂にその終に至らん之を助くる者なかるべし」と教へてある。是が亦土耳其も列強國も諸國民も悉く預期する所で其日は追々切迫してをる

その時何事起るべき乎大なる君ミカエルキリスト臨て世界の万国を滅し義人を救ふのである(但十二章一一二を見よ)之れ正に列強國は勿論諸族諸民の速に目撃すべき大事件なれば死を愛せざる人は皆此書を



探究考査して、智き者(神の言に)となり、神の大なる日の準備せねばならぬ、即ち今は終の世已に此書は開封せられ、誰でも解る様になつたのである。

### 亞米利加合衆國

吾儕は已に西歐諸國と露西亞の權力及彼等が葛藤の原因たる東洋問題も其結果災殃なる世界の大戦争を惹起し、遂に世の終來るべき事を説明したが、未だ他の一大勢力ある北米合衆國に就ては、毫も研究しない、サラバ聖書中此國に關する預言は何處にある？如何して合衆國が歐洲列強と相關係すべき乎、默示録を見れば、明に此國の事が示してある、即ち全十六章に録せる凡の災殃悲歎苦痛は地上の諸國民が受べき刑罰で、同章十二節に(第六の使者その金椀を大河ユフラテに傾けられ

ば其水涸盡たり、是東方の諸王の路を備ん爲なり)とあるは、キリストの臨る前に起る所の世界大戦争を示したものである(北米合衆國の事を悉く知んとせば、默示十三章十一節以下を學ぶべし)

ユフラテ河は源をアルメニア山脉に發して、波斯灣に注ぐ所の河で、大洪水以來流れてあつたが、別段深くはない、古昔アブラハムとケドルマの時、大軍が氾濫中、此河を横切た事がある、亦其後も屢々通過した者あるが、一人も水の涸盡るを待た者はない、此故に默示録に示された大河ユフラテは實際の河でなく、解明の譬喩なる事は、全十七章十五節に由て明瞭である、即ち大河ユフラテの水涸盡たりとは、此河の流るゝ國の權力を奪はるゝを意味するに違ない、サラバ其權力は何國を云ふか、土耳其政府である事は、讀者も疑はあるまい、土耳其の生命は英露獨佛諸列強國の掌中に在る、彼等は必ず分割を企つるに相違ない、其時



至らば預言の如き徒然なる一般大戦争起て東方の諸王の路備はり世界の滅亡となるのである  
 凡て西歐諸國が東方の諸王の路を備へんが爲め土耳其の滅亡に關係するは甚だ奇怪な様だが極東を眺むれば直に分る即ち露は北支那北京に至る北緯四十度の全北部を占領し南は獨英伊佛又亞米利加も已に非律賓群島を併呑して其勢力は悉く東方に集中し西方の諸王は轉じて東方の諸王となつたのである彼等は神が其水涸盡たり是東方の諸王の路を備ん爲なり我また龍の口と獸の口及び偽の預言者の口より時に似る三の汚たる靈の出るを見たり此は惡魔の靈なり異なる跡を行ひて全地の諸王に就り彼等をして全能の神の大なる日の戰に集らしむと言給ひし如く彼等は嘗て土耳其問題に關係せしが今や轉じて支那分割に權力を争ひ東方の王となりて益々軍備を擴張し日々全

能の神の大なる日の戰に進軍しつゝある  
 我儕は能く注意して此重大問題を研究せぬと全世界の富貴に優る永生が得られない即ち神が續ひて十五節に「視よ我盜賊の如く來らん裸体にして行き羞處を見らるゝこと無らん爲に目を醒し衣を着る者は福なり」と告給へるは世界の東西各國が全能なる神の戰地に向て進軍中に救主キリストが天の雲に乗て臨り給ふべしとの警告である其時天の殿と寶座より大なる聲にて凡の事終れりと宣告せられ凡て生命の書に録されし人は皆主イエスの御前に昇るのである  
 讀者は己の姓名が生命の書に録されてあると思ふか之が疑問中の疑問凡の人の大疑問である罪の救は實に大事に相違ない然し今日は只罪より救はるゝ許でなく世界滅亡の艱難より救出さるゝ大切の時である



結 論

終に尙少しく注意して置く事は但以理書二章三十四節汝見て居たまひしに遂に一箇の石人手によらずして鑿れて出でその像の鉄と泥土との脚を撃てこれを碎けりとの意義である。これ一讀何人も甚だ奇怪の思を起すであらふ。そは若しその像の生命を取るならば頭又は腹部の急所を撃つが適當なるに却てこの石は像の足部を打碎いたして見るとその像の生命は上体部でなく足部にあつたと見へる、一体石は何を代表するか聖書を讀んだ者はキリストである事を知るに相違ない馬太傳二十一ノ四二即ち彼は像の足指にて表はされたる王等の日に於て天より現はれ永遠の國を建設するのである、十指の表號にて示されし諸國は西羅馬分裂國で其三つは法王の爲に滅され、殘七ヶ國は今日の

歐羅巴諸國となりて存在して居る彼等は皆チブカデチザル大王の夢みし大像の足指で末の日來らば人手に由ずして鑿れたる石(キリスト)に打碎かれ夏の禾場の糠の如く風に吹はらはれて止まる所なく消滅してしまふのである

讀者諸君は先づ像の頭はバビロンを代表しバビロンはユフラテ河の沿岸に在て其附近諸州は現今土耳其の領地である事を知らねばならぬ。而して土耳其政府の生命は何處に在るか已上の説明に由て彼國の生命は足指にて表はされたる西歐諸國の掌中にある事を理會したであらふ。即ち土耳其は彼等の協商保護に由て此半世紀間漸く獨立の餘命を繼續し來たのである。サラバ神がバビロンを頭として現世に至れる各國政府の生命を取らんとし給ふ時は昔時のバビロン(今のトルコ)を軸として連繫する英獨佛其他の各國を打碎くは實に至當である。こ



れが我儕の目に奇とする神の行である  
 モー一つ研究すべき事は銅の腹と腿にて表はされたグリシヤである  
 グリシヤは今尙王國の名義あるが其生命はヤハリ土耳其同様英佛獨  
 等足指の保護にて露命を保つのである即ち數年前土耳其とグリシヤ  
 が戦ひし時彼等が仲裁して戦を中止し土軍に退却を命じグリシヤに  
 償金を拂はしめて落着した事がある  
 斯の如く神の靈は古今の全歴史を看破して世の終に至り世界の權力  
 及領土を掌握する各國の行動を明に教へ凡て眞理を求むる者に其奧  
 義を現はした即ち此小冊子に引證説明せる聖句は皆今日の各國に關  
 する事で之を悟らざる者は禍の絶頂である又千八百九十八年始めて  
 列強國の仲間入りした遙か半球を異にする北米合衆國の事まで明白  
 に教へてあるとは實に驚くの外はない始め合衆國は全く歐洲各國と

關係なき隔絶の孤立國であつた然るに今や一躍世界の列強國と權力  
 領土を争ひ東進比律賓群島を占領して北清事件に連合軍を派遣する  
 様になつたのである

千八百九十八年九十九年の冬英國のペレスホルド侯が同國商業同盟  
 會の爲め東洋に行き販途米國に來り桑港及オマハ其他の都市の商業  
 會議所に於て米國は支那問題に就き日英獨と握手して露佛に當らざ  
 るべからざる事を論じ且英米日獨同盟せば互に支那に於る權力を保  
 ち開放主義を維持して暫く分割を防ぐべしと主張せし時に米國はこ  
 れに同意して開放主義を要求し支那は分割を免れ各國の商業は安全  
 になつた

斯く近頃まで世間知らずの米國は切に歐洲諸國と關係を結び東方諸  
 王に加はりその途は備へられてある若しその途全く備はらば合衆國



第六十五節  
第六十六節

もヤハリ全能の神の大なる日の戦に集り最後の刑罰を受けるのである。此等の國々は速に滅されて公義正道なる一の神國が建設せらるゝ事は確實である疑はれない即ち過去の帝王各國は興廢存亡定りなく顛覆々々……したが權威と正義を有つキリストの王位に即く時は方國民皆彼に奉へ永遠更ることないのである(結二一ノ二七)彼臨時はその使者を遣して勝をうる者(罪惡には我と偕に寶座に坐することを許さんと呼び給ふ

ア、嬉シア、喜ばし病なく死なく憂なき聖國は臨れり主召び給ふ我らは生て昇天すべしイエスこそ我らの王なるぞア、嬉シア、喜ばし

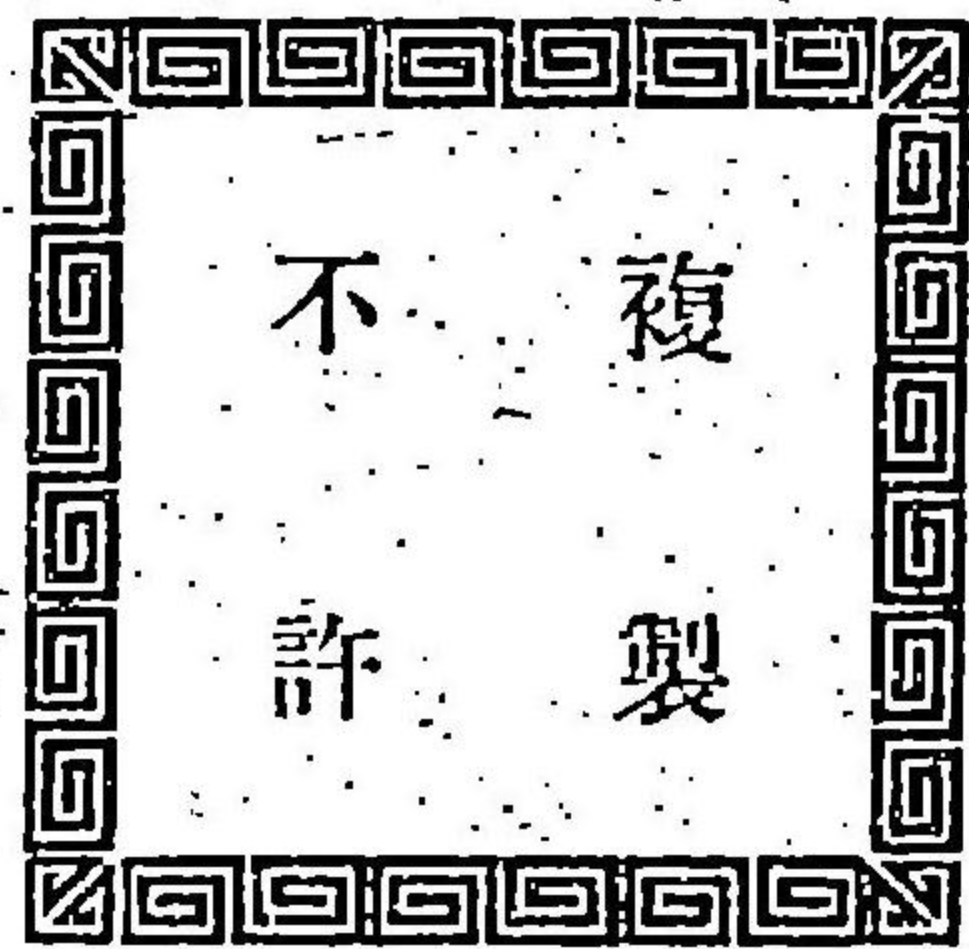
其時神の恩愛を拒みてキリストを信せず己の慾に従ひて世を過した地の諸王、貴人、富者、將軍、勇士、奴隸、自主は皆その榮光を見るに堪へず哭

泣悲鳴して洞穴、巖屋の中に逃込で滅び只生命の書に録されたる者のみ昇天するのである讀者は何を擇ぶか此小冊子を讀んでキリストの臨る時星エホバなり我ら俟望めり我儕らの救を歡び樂しむべしと言ひつゝ、昇天する聖徒の群に加はる事を得ば實に無上の幸福である

各國の進軍終



明治三十六年四月一日印刷  
明治三十六年四月六日出版



發行者

東京市本郷區千駄木林町十一番地

國谷秀

印刷者

橫濱市太田町五丁目八十七番地

村岡平吉

發行所

東京市芝區芝公園第五號地二番

末世之福音社

印刷所

橫濱市山下町八十一番地

福音印刷合資會社



